

温 泉 分 析 書

1. 温泉分析申請者

住 所 : 和歌山県西牟婁郡白浜町1600番地
氏 名 : 白浜町長 井潤誠

2. 源泉名

名 : 日置川温泉 渚の湯
湧 出 地 : 和歌山県西牟婁郡白浜町日置1013-25

3. 湧出地における調査及び試験成績

- (イ) 調 査 名 : 温泉中分析に係る調査
分析機関の名称 : 和歌山県環境衛生研究センター
所属及び試験者 : 水質環境グループ 奥野優希
- (ロ) 調査及び試験年月日 : 令和元年5月21日
- (ハ) 知 覚 的 試 験 : 無色澄明にて、無臭、微弱甘味を有する、気泡の発生無し。
- (ニ) p H 値 : 10.1
- (ホ) 泉 温 : 33.0 ℃ (調査時における気温 23 ℃)
- (ヘ) 湧 出 量 : 436 L/分 (動力揚湯 30馬力)
- (ト) 電 気 伝 導 率 : 0.0319 S/m (25 ℃)

4. 試験室における試験検査

- (イ) 分析機関の名称 : 和歌山県環境衛生研究センター
所属及び試験者 : 水質環境グループ 奥野優希
- (ロ) 分析終了年月日 : 令和元年7月8日
- (ハ) 知 覚 的 試 験 : 無色澄明にて、無臭、微弱甘味を有する。(採水後24時間)
- (ニ) 密 度 : 0.9995 g/cm³ (20.0 ℃/4.0 ℃)
- (ホ) p H 値 : 10.0
- (ヘ) 蒸 発 残 留 物 : 0.1975 g/kg (110 ℃)

5. 試料1kg中の成分、分量及び組成

(イ) 陽イオン

成 分	含有量(mg)	当 量(mval)	比 率(mval%)
水 素 イ オ ン	H ⁺	0.1未満	—
ナトリウムイオン	Na ⁺	68.0	2.96
カリウムイオン	K ⁺	0.9	0.02
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	0.1未満	—
カルシウムイオン	Ca ²⁺	1.2	0.06
マンガンイオン	Mn ²⁺	0.1未満	—
鉄 (II) イ オン	Fe ²⁺	0.1未満	—
アルミニウムイオン	Al ³⁺	0.1	0.01
陽 イ オ ン 計		70.2	3.05

(ロ) 陰イオン

成 分	含有量(mg)	当 量(mval)	比 率(mval%)
ふっ化物イオン	F ⁻	4.2	0.22
塩 化 物 イ オン	Cl ⁻	10.0	0.28
水酸化物イオン	OH ⁻	0.1未満	—
硫化水素イオン	HS ⁻	0.1未満	—
チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻	0.1未満	—
硫 酸 イ オン	SO ₄ ²⁻	0.2	0.00
炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	19.1	0.31
炭 酸 イ オン	CO ₃ ²⁻	71.3	2.38
メタけい酸水素イオン	HSiO ₃ ⁻	71.6	0.93
メタほう酸イオン	BO ₂ ⁻	1.3	0.03
陰 イ オ ン 計		177.7	4.15

(ハ) 遊離成分 (非解離成分)

成 分	含有量(mg)	当量(mmol)
メタけい酸	H ₂ SiO ₃	0.1未満
メタほう酸	HBO ₂	0.1未満
非 解 離 成 分 計		0.1未満

(ニ) 遊離成分 (溶存ガス成分)

成 分	含有量(mg)	当量(mmol)
二酸化炭素	CO ₂	0.1未満
硫化水素	H ₂ S	1.3
溶 存 ガ ス 成 分 計		1.3

(ホ) 総硫黄 (再掲)

成 分	含有量(mg)	内S分(mg)
硫化水素イオン	HS ⁻	0.1未満
チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻	0.1未満
硫化水素	H ₂ S	1.3
総 硫 黄	S	1.2

(ヘ) その他微量成分

成 分	含有量(mg)
銅 イ オン	Cu ²⁺ 0.01 未満
鉛 イ オン	Pb ²⁺ 0.05 未満
総 ひ 素	As 0.001 未満
総 水 銀	Hg 0.0005 未満
カドミウム	Cd 0.05 未満

(ト)

溶存物質 (※ 活性のものを除く) 計	0.248 g/kg
---------------------	------------

(チ)

成 分 総 計	0.249 g/kg
---------	------------

6. 泉

質 : 本泉は、アルカリ性単純温泉である。

(浸透圧・液性・泉温による分類 低張性アルカリ性低温泉)

7. 禁忌症、適応症等 : 温泉分析書別表に記載する。

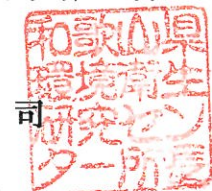
令和元年 7 月 17 日

和歌山市砂山南3丁目3-45

和歌山県環境衛生研究センター (登録分析機関 登録番号 第1号)

所 長

脇 阪 達 司



温泉分析書別表（浴用）

源泉名：日置川温泉 渚の湯
源泉所在地：和歌山県西牟婁郡白浜町日置1013-25

温泉分析申請者

住所：和歌山県西牟婁郡白浜町1600番地
氏名：白浜町長 井潤誠
泉質名：アルカリ性単純温泉
泉質分類：低張性アルカリ性低温泉

分析結果による療養泉分類及び含有成分に基づく禁忌症、適応症等は環境省自然環境局長通知（平成26年7月1日）環自総発第1407012号によれば次のとおりである。

禁忌症について

禁忌症は、1回の温泉浴でも有害な事象を生ずる危険性がある病気・病態である。
なお、禁忌症にあたる場合でも、専門的知識を有する医師（温泉療法医等）の指導のもとに温泉療法を行うことは妨げない。

（浴用の禁忌症及び適応症の掲示は、浴用の利用許可後に行うこと。）

〔浴用の禁忌症〕

一般的禁忌症：病気の活動期（特に熱のあるとき）、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期

泉質別禁忌症：なし

〔浴用の適応症〕

一般的適応症：筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり（関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期）、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、末梢循環障害、胃腸機能の低下（胃がもたれる、腸にガスがたまるなど）、軽症高血圧、耐糖能異常（糖尿病）、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状（睡眠障害、うつ状態など）、病後回復期、疲労回復、健康増進

泉質別適応症：自律神経不安定症、不眠症、うつ状態

浴用の方法及び注意

温泉の利用は、以下の事項を守って行う必要がある。

- （1）入浴前の注意
 - ア 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避ける。酩酊状態での入浴は特に避けること。
 - イ 過度の疲労時には、身体を休めること。運動後30分程度の間は身体を休めること。
 - ウ 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。
 - エ 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすと共に、身体を洗い流すこと。
 - オ 入浴、特に起床直後の入浴等は脱水症状等にならないよう、入浴前にコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。
- （2）入浴方法
 - ア 入浴温度：高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。
 - イ 入浴形態：心肺機能が低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましい。
 - ウ 入浴回数：入浴開始後数日間は1日当たり1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。
 - エ 入浴時間：入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3～10分程度とし、慣れてきたら15分～20分程度まで延長してもよいこと。
- （3）入浴中の注意
 - ア 運動浴を除き、一般的に手足を動かす程度にして静かに入浴すること。
 - イ 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
 - ウ めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、頭を下げて浴槽からゆっくり出て、横になって回復を待つこと。
- （4）入浴後の注意
 - ア 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること（ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質に入った後、温泉成分を温水で洗い流したほうがよいこと。）。
 - イ 脱水症状などを避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。
- （5）湯あたり
 - 温泉療養開始後、おおむね3日～1週間前後に気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。
- （6）その他
 - 浴槽水の清潔を保つため、浴槽にはタオルは入れないこと。

（注）この別表は、温泉法第18条による掲示に必要な参考資料となるものである。